巨大ウォールに挑む選手。観客はハラハラ・ドキドキ

国内最高レベルの競技を堪能

―― クライミング競技＝森吉総合スポーツ公園 ――

第62回国民体育大会（秋田わか杉国体）山岳競技クライミング競技が9月30日から10月2日までの3日間、森吉総合スポーツ公園の特設競技場で開かれ、出場した選手たちは国内最高レベルのクライミングを披露しました。

人工壁に設置されたわずかな突起物（ホールド）を利用し、6分間の間に各チーム2人が同時に約15ｍの人工の壁を登り、到達高度点を競うクライミング競技。

競技は、軽快な音楽を背景に、ＤＪ（ディスクジョッキー）による紹介で選手が登場する独特のムードの中で行われ、手指の滑り止め用のチョークパウダー、落下したときの安全確保用具（ロープ、ハーネス、カラビナ等）などを用い、ビル3階ほどに相当する逆勾配のボードを素手で登る迫力は見る人を圧倒します。

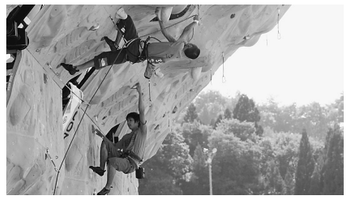
本市からは、少年女子にら畠山菜都美さん（鷹巣高校2年＝綴子）が、成年女子には吉田麻衣子さん（県体協、市教委勤務）が出場し、ベストは尽くしたものの2人とも決勝に進むことはできませんでした。

大会期間中、選手、役員、係員のほか約４００人のボランティアや７５０人の補助員（中高生）などで大会を支え、また、いちから作り上げた大会であっただけに関係した多くの方々の脳裏に深く焼きつく思い出深い大会となりました。

環境美化ボランティアとして大会運営に協力を頂いた山田つじ子さんは「いけいけムードのクライミング。会場の雰囲気がとても良く、楽しみながらボランティアできた3日間でした」、花のプランター管理の庄司作治さんは「花のプランター装飾が最高の状態で会場や沿道を飾ることができた。国体は水害を跳ね飛ばすほどの素晴らしい歴史を刻んでくれた」、駐車場ボランティアの成田佐七郎さんは「駐車場も慌ただしく、一般客に迷惑をかけたが、これも観客が多い証。観戦した帰り際の観客の顔も満足した感じで、私自身も嬉しさを実感した」などと国体補助員としての感想を述べてくれました。

▲市実行委員会では、最高到達点（15m＝完登）に達した選手に個人賞を贈りました。写真は少年女子の３選手（左＝栃木県・上岡怜衣選手、中＝山口県・坂本和美　右＝群馬県・長谷川美玲選手）

▲巨大ウォールに挑む成年女子秋田県チーム（左：日沼瑶子選手＝郡山女子大、右：吉田麻衣子選手＝県体協、市教委勤務）



▲難所に挑む栃木県選手

▲600席の観客席だけでは足りず、臨時観客席を設けるほどの大観衆が訪れました。

▲清潔で綺麗なトイレを心掛けるボランティア。

競技結果（決勝）

■少年女子

成績	県名	メンバー名	得点
優勝	山口	坂本、波多野	76.136
2位	静岡	戸根木、山田	71.590
3位	富山	嶋田、内山	69.318

■成年女子

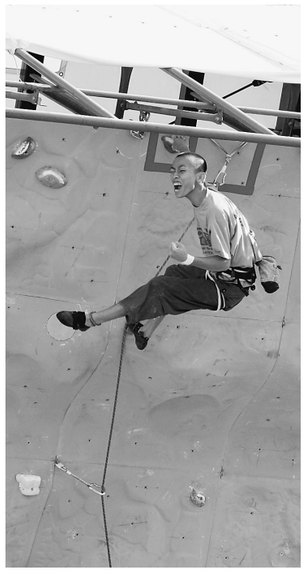
成績	県名	メンバー名	得点
優勝	宮城	尾川、簾内	80.681
2位	長崎	松尾、津田	76.136
3位	千葉	平野、榊原	73.863

■少年男子

成績	県名	メンバー名	得点
優勝	栃木	安間、松本	78.409
2位	北海道	鎗水、杉本	65.909
3位	宮城	堀、村上	63.636

■成年男子

成績	県名	メンバー名	得点
優勝	千葉	茂垣、渡辺	85.227
2位	愛知	大山、田中	84.090
3位	宮城	竹内、松島	81.818



左　：少年男子の部決勝で完登しガッツポーズする栃木県の安間佐千選手
右上：来場者に飲物等で接待するボランティアのみなさん
右下：オブザベーション時に選手と一緒に地元保育園児や中学生が登場するなど、大会を盛り上げました